

瀬田川プランクトン調査結果速報

～第50報～

滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
環境監視部門 生物圏係
令和3年3月15日

1. 最も数が多かった種類(優占種)

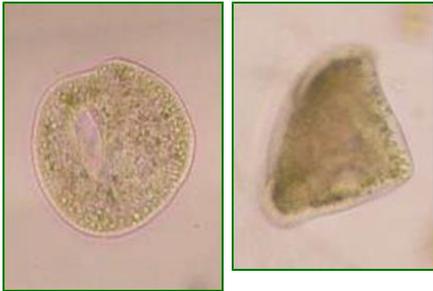
植物プランクトン第1優占種



Cyclotella glomerata
(ヒメマルケイソウ)
珪藻綱

細胞は、横から見ると長方形に見えるが、真上から見ると円形に見える。その直径は4～10μ mと小さい。多数が鎖状に結合して群体をなす。

動物プランクトン第1優占種



Stokesia vernalis
(ストケシア)
繊毛虫類

体は傾いた円錐形で、口のある腹側(写真左)は平らで密に繊毛が生えており、側面(写真右)から見ると三角形に見える。体内に緑色の共生藻類を持つ。繊毛虫の仲間では大型種(100～200μ m)である。南湖において春季に観察される。

コメント

植物プランクトンは珪藻に属するヒメマルケイソウ(*Cyclotella glomerata*)が先週に引き続き優占種となった。体積で見ると、褐色鞭毛藻に属するクリプトモナス(*Cryptomonas* sp.)が優占種となった。網別の体積では、珪藻類が総体積の約44%、褐色鞭毛藻類が約35%、緑藻類が約10%を占めた。動物プランクトンは繊毛虫類のストケシアベルナリス(*Stokesia vernalis*)が260個体/Lで優占種となった。ピコ植物プランクトンは今週も少なく、420細胞/mL未満であった。

2. 見つかった主なプランクトンとその数(個体数)

(1) 動物プランクトン

第 1 優 占 種		個体数 (個体/L)
繊毛虫類	<i>Stokesia vernalis</i>	260

第 2 優 占 種		個体数 (個体/L)
ワムシ類	<i>Polyarthra vulgaris</i>	140

* 個体数は、プランクトンネットNXXX25(目合い41μm)で1000倍濃縮したものを直接検鏡して計測した。

瀬田川植物プランクトン調査結果速報

滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
環境監視部門 生物圏係

(2) 植物プランクトン

令和3年3月15日

第50報

(綱) 種 名	細胞数 (群体数)		
		数	体積
(黄鞭) <i>Chrysamoeba radians</i>	80		
(珪) <i>Aulacoseira ambigua</i>	18		
(珪) <i>Cyclotella glomerata</i>	360	◎	○
(珪) <i>Diatoma vulgare</i>	2		
(珪) <i>Fragilaria crotonensis</i>	22		
(珪) <i>Asterionella formosa</i>	18		
(珪) <i>Asterionella gracillima</i>	58		
(珪) <i>Synedra acus</i>	12		
(珪) <i>Nitzschia obtusa</i>	1		
(珪) <i>Nitzschia</i> sp.	20		
(渦) <i>Gymnodinium</i> sp.	20		
(褐) <i>Cryptomonas</i> sp.	80		◎
(褐) <i>Rhodomonas</i> sp.	100	○	
(緑) <i>Dictyosphaerium pulchellum</i>	32		
(緑) <i>Closterium gracile</i>	2		
(藍) 藍藻綱	0	0.0	0.0
(黄) 黄緑藻綱	0	0.0	0.0
(黄鞭) 黄色鞭毛藻綱	80	9.7	6.2
(珪) 珪藻綱	511	61.9	43.5
(渦) 渦鞭毛藻綱	20	2.4	5.9
(褐) 褐色鞭毛藻綱	180	21.8	34.8
(み) みどり虫藻綱	0	0.0	0.0
(緑) 緑藻綱	34	4.1	9.7
(他) その他のプランクトン	0	0.0	0.0
総 細胞 数	825	総体積	4.40E+05
種 類 数	15	(μ m ³)	

- 注1) 細胞数の単位は(細胞/mL)
ただし * 印の種は群体数(群体/mL)
- 注2) 優占種は◎が第1優占種、○が第2優占種
数字は各綱ごとの占有率(単位: %)
- 注3) ★: 異臭味原因プランクトン
- 注4) 細胞体積は、顕微鏡観察による画像から
試験的に推定した概算値である。



ピコ植物プランクトン
1,000倍G励起で撮影

(3) 見つかったピコ植物プランクトンとその数(細胞数)

ピコ植物プランクトン数	細胞数/mL
藍藻類 <i>Synechococcus</i> sp.	< 420

注1) プランクトンを大きさ別に分類したとき、大きさが0.2~2μm(1μmは1mmの1,000分の1)の最も小さなランクのものをピコプランクトンと呼んでいます。この中で光合成色素を持つものをピコ植物プランクトンと呼んでいます。ピコ植物プランクトンは細菌と同じくらい小さいので、落射蛍光顕微鏡を用いて観察し計数します。G励起(緑色光照射)で輝橙色に輝く種類と深赤色に見える種類があります。